
キーショック

ハセポリスク

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

キーシヨック

【Nコード】

N2225I

【作者名】

ハセポリスク

【あらすじ】

A子の異変の理由は…

A子は街を歩いていった。すると地面に鍵が落ちていた。よく見ると何か書いてある。A子はその言葉が気に入り警察に届けなくて自分で持っていることにした。しかし、その鍵を持ち始めてから周りの様子がおかしくなった。A子の周りの人が全員A子をにらんでいる。会社の同僚に「みんなが私をにらんでいる感じがするんだけど」と言うと、同僚は「何ばかみたいなき事言ってるの？そんなわけないでしょ？」と言うが言い終わるとすぐに目つきが変わりA子をにらみ始める。こうなったらどうしようもない。A子はあの鍵のせいだと確信し、警察に届けることにした。近くの交番に入ったが中は病院のようになっいて警察官はいない。代わりに精神科の先生がいる。間違ったと思つて外に出てみるが、外から見ると交番だ。A子はおかしいと思ひ他の交番に行った。しかしまた精神科の先生だ。他の街の交番も行つてみた。しかしどの交番にも精神科の先生しかいない。ほとほと困つたA子は仕方なく精神科の先生にかかることにした。先生に今までの事を全部話した。先生は「その鍵が問題ですね。ちよつと見せて下さい」と言つたので、A子はバツグから鍵を取り出した。すると先生は、なんと、その鍵をカナヅチで打つて真つ二つにしてしまった。すると中から小麦色の乾燥麵が出てきた。先生はとつさに「スパゲティは何ソースが好きですか？」とA子に聞いた。A子は「チヨコレートソースです」と答えた。A子は普段、おかしな人間だと思われるから、あまり皆には自分の好物がチヨコレートがけスパゲティと言わないのだが、この時ばかりはA子は正直に答えた。と、先生はビックリしたような顔をし、その後、満面の笑みを浮かべた。「分かりました。原因が」と先生。その鍵にはシークレットレシピと書いてあつたのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2225i/>

キーショック

2011年1月4日14時53分発行